

描く夢に向って

松原 七海

「教師になりたい。これが、十四歳の私が描く夢だ。全く興味を持っていなかった教師の仕事を目指す気持ちになったのは、中学一年時の先生との出会いがきっかけだった。

先生は、私の担任であり、国語科の担当でもあった。国語の授業で、先生は、私達が生きていく時代は、多様で円滑なコミュニケーションが重要だと何度も話してくれる。その

ためには、「考える力、感じる力、想像する力、表す力」を持つ事が大切で、これらはいずれも国語力が基盤となるのだ。今まで、教科書の中だけの狭い世界しか見てこなかった私にとって、先生の国語の授業はいつも刺激があり、視野を広げてくれる時間になっていた。

そして、先生から教わった考え方は、私の学校生活にも影響を与えている。それは、私が学級委員としてクラスをまとめる難しさに

悩んでいた時だった。自分の考えを押し付け
る私に対し、相手の想いを想像し、互いの考
えを伝え合う大切さを口を酸っぱくして伝え
てくれた。そして、先生に頼るのではなく、
自分達で自ら考えて行動できる力を養って
いく必要性を私に気付かせてくれた。
私は、今も色々な課題や悩みにぶっかかりな
がら日々を過ごしている。でも、先生が伝え
てくれた考え方を忘れずに、挑戦を重ねてい
きたい。そうした積み重ねが、自分自身の新
しいステージに繋がるのだと信じている。
これから、私には様々な出会いが待って
いる。人との出会いに感謝し、出会った人か
ら学び、成長していきたい。そして、私が大
人になり、次の世代を担う子供達に、人との
出会いの素晴らしさやそれを通じて得た考え
や想いを伝えていければと考えている。今度
は、私が子供達に寄り添い、気づきを与え、
支えとされるように。